ちょっとお邪魔 ③

金木町長　花田一氏

『町長さんはものすごくカラキジだそうですが……』と訪問の挨拶のあと〃ちょっとお邪魔〃のことを述べて短刀直入。（内心はオツカナイのだがこの関門を無事通過すれば初間に対しての答が簡単にでるものとズルイ考え）

『みんながそういつているそうですネ。ワタシ自身もそう思つています。でも近ごろはカラキジがなくなつたと議員サマ達からホメられていますよ、特に岡本様に……』

と笑顔でケロリとしたモノ。アツサリ片すかし。

それでいて僕の眼から何かをサガそうとしている眼ツキ。

若いがなかなかユダンができない。

一昨年『公金横領だ』『サギだ』とハデに騒がれながらも、新町の初代町長にミゴト当選した人だ。

自信もつき、椅子に腰をかけてる姿はマサに貫録十分というトコロ。

『カラキジだということではズイブン損はしているが、トクしてる点もあると思います』とワリ切つたいい方。

『何故？カラキジのテマエもありますからいわないことにしましょう、割り切つてしまえば人生また楽しいモノ……』だそうだ。

派手にみえるが苦労人

町長ぶりもイタにつく

訪ねた日は年も暮、十二月二十二日、ものスゴク寒い日だつた寒さには敏感です、といつてソバにあつたデレーキをオンミズカラ手にもつてストーブをガタガタ。

『このストーブは形はシヤンだがちよつとカラキジで……』おシヤレらしい。

アラタメテ下から上までナガメてみた。（気付かないらしい）そういう御本人もなかなかのおシヤレだ。（観察しているその途中で）

『チヨツト失礼』といつて、町長室のスミツコの方に歩いていつた。

みないフリしてみていたら……チヤプチヤプ。洗面器の中の液体で、手の消毒らしい。（お邪魔している間に三回やつた）

これも彼の性格らしい。

『職員を人前も考えず叱り ツケる？』

ナカナカ手ごわいですネ。

どうもアリガトウ。

みんながそういつています。ソレが私に対してのみんなの忠言です。

だがワタシは（力を入れて）理由がはつきりしていれば（ちよつと力をヌイテ）オコりませんヨ』

答弁、答弁でキタエあげたコノ口の冴えぶり。ココでもあつさりカタすかし。

『女にモテル？　トンでもない

いいたい人にはいわしておけばいいもんです。（声をオトして）ホントにそうなら嬉しいネ、ですが、生命（イノチ）がモチませんヨ…それに政治生命もネ』だそうです。

ホントですかと念を押したら『選挙する人は特定の女を持つべきではありませんネ』

ドウモ僕の想像はカメラブレで輪カクがはつきりしない。コノ人は私生活にも随分注意をしているらしい。

突然頭の上の方から小鳥のキレイな声がきこえてきた。

永井校長（金中）センセイからいただいたカナリヤで、自宅よりも役場にいる時間が長いからココにおくんだそうだ。そして『このカナリヤこれでヒトショベして……可愛いトコがありますヨ』という。忙がしクテ……とはいつているがなかなか余裕のあるトコロをみせている。

ややシミリした話コに入つてきたのだが、ノツクの音がきこえ、スグどやどやと五人位侵入（みたいに）してきた。

まだお伺いしたいことがあるので、しばらく傍観、傍聴——。明ければ満三十六歳の美丈夫。形式バツテ近づき力タイともいわれている人——。

今入つて来たお客さんは土地改良やその他農業問題で相談にきた農家のオヤジさんに若い連中だ。しかしその応待ぶりはドウシテ、ドウシテ……。

ちよつと普通の人にはできないホド頭がヒクく、親切なもてなし方だ。

そして克明にメモする細心サ。一見ハデにみえるが、苦労性のヒトと見極め タリ。

今の若い人にいわせれば、真面目で、政治手腕があり、社交的で、知性に富んでいなければならないのが現代の政治家だそうだ。

今また告訴されているが、コンナにズバズバいわれたんジヤ、その事についてきくにもキカレないのが筆者の心境。どうも政治家は僕にはニガ手だ。

『私の政治生活に門をアケてくれたのは家内の父です』といつている謙キヨな心の持主。だがその反面はつきりした理由がなければなかなか表面にでてあるきたがらない要心深さがあるのではなかろうか。

このヒトは、生ツスイの金木ツ子で、お祖父さんに叱られながらも、カクレテ野球をやり、五農時代には名選手でナラシ、卓球、庭球、スキーとナンデモ屋の万能選手でありながら、囲ゴマージヤン、将棋、トランプ、ダンスというようなものはヤラないし、嫌だそうだ。

それでもお酒、ビールはおツキアイで三本ホド、煙草はヒトからもらつて吸つてはみるがゼンゼン受けつけないという。

『趣味？そんなものはありませんヨ。町のこと、それのみですよ』と答える。

父には早く死なれ『私は祖父と叔父に育てられた魚屋の兄です』というこのヒト。

また円満な人格形成の要素は、なんといつてもその人の生活環境と努力による、ということのヒト。

今日はマカしてやろうと思つて寛気まいてヤツテきたのだが、逆に完全に負けてしまつた。

彼のエト。それは『羊』である『ひつじ』は昨年、即ち昭和三十年で新金木町が生れ、初代町長の選挙のあつたトシだ。

幸運のこの人は明年は『御猿』（御座る）ガツチリと組んで農業振興に力を入れるそうだ。

ナルホドというよりホカに言葉はなさそうだ。（H）

絵は子供の生活を表現

図画教育より創造力の培養

五所川原保育園長　菊池吉彌

フランスから帰つた天才幼年画家クロード・岡本のことがジヤーナリズムの間でさわがれ、大阪や東京で児童画の研究熱がさかんになつたこの幼稚園でも保育所でも幼児童に絵を描かせることが盛んになつた。ある幼稚園などは専門的なにたのんで描画教育をやつている。そしてそれを看板にし、誇りにしている幼稚園や母親も少くない。昨年私は横浜のある著名の幼稚園で先生に絵を教わつていたという子の家に偶然行つて、その子の絵を見たが、それは如何に生気のない芸術的な『児童画』であつた。然しそれは如何にも大人が考える子供の絵であつて、その子供自身のものでない。親はそれがなかなか得意なのだがやがて話の末に『これは家へ帰つて描いた絵なのです』と恥かしそうに一枚の絵を見せてくれた。それは如何にも幼稚な電車を書いたものであつた。これこそこの子の実力で描いたこの子の絵なのである。

しかし母親が恥かしそうにしているので、子供も『母さん、見せちやイヤだい』といつている。私は幼稚園で絵の先生の指導で描いた絵よりも、電車の絵をほめて『坊やの電車走つているのだね、どこへ行くんだろう。面白そうだね』というと『うん、後楽園行きだよ』お父さんと一緒に行くんだ』『そう、小父さん後楽園に行つたことないだ。どんなとこ？』『うん、野球場があつて、面白いよ』私に詳く話していたこの坊やは元気に絵を描き出した。ブーとかゴーとかチンチンとかいいながら描いていたが、出来た絵は元気にあふれた楽しい絵であつた。『ほう、これあ上手だ。小父さんにちようだい。小父さんの家にはつておくから』『うんあげるよ』この坊やは気まいよく私にその絵をくれた。

私はその坊やのお母さんに『子供が絵を描くのは遊びです。絵で楽しくお遊びが出来るようになつたら、子供の絵で自分のねがうこと、いやなこと、好きなもの、なんでも表現します。それで子供は自分の願望を満足させたり、いやなことを排除したり、自分を慰めたり、励ましたりするのです。幼い子には漫画は一つの生活です。自由にのびのびと描かしていれば、自然に自分で自分を延ばしていくものです。他から教えこんだものは直ぐなくなりますが、自分で得たものは身についてはなれません。大人でもよい絵は、よい生活の中から生れてくるものです。殊に人に見せようという作為のない幼児の絵は、そのままにその子の生活であると共に正直な表現ともなるのです。絵を習わせるよりも、喜んで描くように励ましてあげることの方がもつと教育的です』と話した私は幼児画に対する世の人達の関心が高まつて来たことに喜びを感じているが、そのためにかえつて子供を駄目にする所謂『図画教育』が行われなければよいが、と、ひそかに心配している。絵よりも、何よりも大切なのは子供であり、子供の創造力であるから。

子供風物誌

カツト…金中二年　太田みさを

風

下北半島の中頃に『横浜』というすでく風の強いところで、くらしたことがあるが、金木も父それにおとらない。日本海を渡り、津軽平野を走りつづけて、ふきまくる風は、生活の中にとけこんでしまつている。（T・I生）

金中一年　秋元修治

東へ東へとあるいていく
かぜが
西の方から
ぼくをおいかけてくる
ぼくもまけずに走つた
だが、日は暗い
つきたての餅を思わせる道
さつさらさつと
けさも生徒の足が続く
手はかがみ
顔はほてり
息は白い。

金中一年　大川汎子

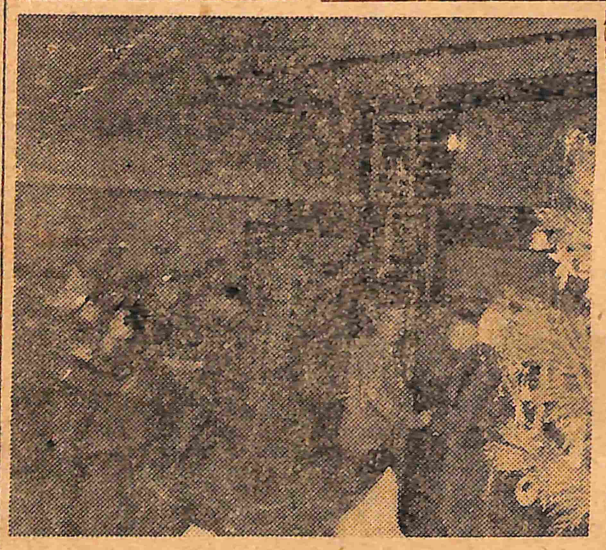
風の早さにはかなわない
かぜは
どこまでいくのだろう

金中一年　ヒヤツとする空気

今日も吹く
あすも吹く
ピユーン、ピユーンと。

金中　泉谷のり

ひとどうりの少い
村のまがり角の
一本の電気ばしらにはられた
立候補のポスター。
いまにも降つてきそうな
なまり色の空
すごい風だ
半分以上もはげていて
ちようつとで
とびちぎれてしまいそうだ。
ハタハタと
必死になつて
柱にからまつている。



【写真—主催は〃さわらび会〃と母の会】

遊んでホメられた!!

十二月二十一日の夜金木町保育所で開かれたクリスマスの仮装ダンス・パーテーの楽しそうな一コマ。

仮装用具は一式五十円也。

利益は一式から七円。これで得た益金はシメて約九百円とかだが、そのまま保育所のヨイ子達におくられるとかのことだがサテなんになるやら……。

当日のお客様は『遊んで、寄附してホメられるんだから一石三鳥だ』と。

∴謹賀新年∴

金木町議会

議長　山中与七

副議長　米谷甚九郎

議員　吉田敏正　鎌田善七　山中武太郎　内海精蔵　中村本眞　桑田精三　白川慎一　棟方善四郎　大橋勇五郎　鳴海善八　岡本権八　今久米雄　工藤源三郎　泉谷勝雄　大橋喜八郎　佐藤忠太郎　三上政雄　古川竹夫　成田勇蔵　吉田七郎　木村清巳　泉谷勇之助　津島千代雄　松川兼次郎　田中国吉　鳴海正吉

議員　角田正守　中村健司　小松常五郎　藤元唯広　伊藤満平　斎藤和吉　伊丸岡武馬　桑田哲男　田中直太郎　伊藤宮雄　花田柾義　広瀬与一郎　高橋繋　白川兼四郎　角田惣作　田中柳吉　田中勇吉　津田孫一　泉谷兼五郎　白川直義　原田源太郎　中村美智男　古川角右衛門　野宮平助　白川彌太郎　増田精一郎　桑田信吾

第三十二号
新春特集号

発行所 金木町
印刷所 東奥日報社
印刷局

金木だよりは各世帯毎に一部宛つ無料配布致しております。

金木だより

議会運営は〝人の和〟

金木町議会議長 山中 与七

昭和三十一年の新春を迎えるにあたり、町長各位の御健勝を衷心からお祝い申上げます。

さて新町発足の第一年を回顧すればうたた感慨無量のものがあります旧町村から引継がれた残務の整理に、或は新規事業の処理等に東奔西走の年でありましたが、新町の仕事はこれからであります。地方自治体とはいえ、末端町村の議会は政党政派に拘束せられることなく、不偏不党自己の確信するところに向つて一路邁進し正論を張り、邪説を破り、誠心誠意、町民の福利を増進することに努力しなければならないと思います。

一町の治績は直ちに一郡に、そして県に及び、ひいては一国の政治に関連するもので、議員の任務もまた重しというべきであります。

近く合併による新議員の選挙が行われますが、なんと申しても自治の発達と議会の運営を円滑にする最大の原動力は、人の和であると思います。

『天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず』の譬の如く和合を第一として希望に輝く新金木町の発展に協力いたしたいと思います。

◎あしあと◎

十二月二十二日 金木共用林組合役員会、鹿の子溜池正副会長会議、金木地区農業委員会

十二月二十三日 高校組合議会並びに教委会合同会議、成人講座（嘉中）川倉財産区会並びに農業委員会合同会議

十二月二十四日 登記所落成式、総務・文教・財政常任委員会合同会議

十二月二十五日 滞納整理組合設立に関する協議会

十二月二十七—八日 第三回定例町議会

一月一日 名刺交換会

金融機関からみた我が町の景気

前渡金も 焼石に水の農家

預金の多寡が景氣好転の鍵

青森銀行金木支店長 森田重雄

終戦前後は殆んどあらゆる物資が統制下におかれて参りましたが、その後経済の復興は逐次進められ、それと共に諸種の統制も漸次撤廃となり、食糧についても、昭和二十七年に麦類の間接統制への移行を最後として、終戦十年を経過した今日では、米のみが唯一の統制品として残されているのに過ぎませんが、これも三十一年度から直接統制の廃止されるという客観情勢に立到つているのであります。

いうまでもなく二十八年度来の農作物の不況により各業種共に危機に立到つたのでありますが、本年度において近年まれなる大豊作に恵まれると共に八月の予約貯付金の前渡により旧盆を前に一時的なるも各業種に活況を呈したのでありますが、収穫期の悪天候により一時貯金の流入がおくれ憂慮されたるも、その後において漸次好転いたし木材業、呉服業ならびに諸業種にわたり活発なる業況が転回さるるも、前記に申述べましたとおり二年越の不況が影響をみ、営農資金、農手、予約前受金等の返済により財布の底を突くというような状態にあり、豊作ブームも不想に反し昨今の商況が停頓いたしており、金融機関の預金上昇も目標額達成には今一段の努力が必要とされ、各々金融機関は日夜預金獲得に懸命の努力をいたしておりますが、なんと申しても自治の発達と議会の運営を円滑にする

安定した町民生活

昨年より景氣好転か

弘前相互銀行金木支店長 工藤儀蔵

『明るさを漂わせている歳の瀬』やれデフレだ、不景気だ、と問題の多かつた昨年の暮に比べて、今年は何となく明るい年の暮といつた感じがいたします。

この明るさは、わが国の輸出の好調、農産物の大豊作といつた『外からの幸運』に左右されてるとはいい、過去二カ年に亘るデフレ経済を、みんな心の奥底から体験してムダをなくしようとする気構えが滲透して、生活もかなり落つきを見せて来たためとも考えます。

この明るさは、われわれの生活実感からもうなずけるし、いろいろの経済指標についても戦後の記録を矢つぎばやに更新しており、まだまだ努力する面があるとしてもともかく一応明るい様相を示しているということが出来ます。

最近の経済の明るさは、私達金融機関の窓口にも預金の増加といつた型で率直にあらわれ、しかも、この大部分は長期性預金によつて示され、質的にも極めて健全な伸長振りを示して居ります。

私達が窓口から覗き触れ、得た我が金木町の総括的な経済は、一応安定し、明るい様相を示して居り賃金面の活発性は都市に比して鈍いが、一般的に企業の投資による借入も激減し、大衆の消費もとみに節約され、町民の生活が非常な落ちつきを見せて来たといつた感じが致します。

職業構成上の大半を占める当町農家の経済は、豊作の裏には夏野菜闇米の価格の低落、林業等の副収入、労賃など農業外収入の減少等農家の現金収入にとつてマイナスの現象もあるとはいえ、一般的に昨年より約一割以上は増加していることは確実で、中には一部過年度における無計画支出によるシワよせ等により、やり繰り算段の経済の城を脱し得ない農家もあるようですが、生活に落着きが出てきたことは接触してみて非常によく分り、定期性の預金も非常に増加していることも金木町のために喜ばしいことと思います。

中小商工業者は一般的に内容も安定し、投機的な過年度の商況に対するあせりもみられず、堅実さが預金の増加に如実に表われてきており、無理な借入金の申込みも激減の傾向をたどつております。

一部には、豊作景気を買いかぶつて、必要以上に仕入れ、金繰りが悪化している業者も見られるも、商況は卸業者で四割増の売上高、小売業者は昨年よりも一割減の売上高といつた状況にも見られます経済の安定に伴う俸給生活者は、昨年よりも一般的に収入が増加した割に支出はふえず、幾分余裕が出て来たということは、物価が安定して来たと見るべきで、預金取引者の急増といつた型で表われ、意を強くいたしている次第です。

ところで、これから年末年始と消費の時期に入りますが、与えられた今年の好運を逃すことなく、財布の紐をしめ、健全なる生活習慣が広まるよう、生活のムダを反省し来年のよりよき生活設計を樹て目的貯蓄をして戴きたいものと思つております。

苦しかつた昨年30年

今年は名実共に試錬の年

津軽信用組合金木支店長 山田眞伍

『今年こそは』の希望で迎えた三十年も、内外共に暗澹たる事柄の連続であつた。こうした三十年を金融機関の側からみたわが金木町の経済をみるのもまた意義深いものであろう。

創立以来、日未だ浅いわが津軽信用金庫の窓口から眺めた過去一年間の町の景気を顧みるとき〝苦しかつた昭和三十年〟の一言に尽きるといい得る。

過去二カ年の不作にもかかわらず『今年こそは』の意気天を突くの概をもつて新春を迎えたわが町の農・商・工業界の各部門の人々が営農資金、農業共済金の出回り等で一時活気づき、なかんずく本年度待望の予約集荷制度による供米制度の実施に伴い、前渡金に対する魅力は疲れきつた町農商工業者にとつてはさすがに大きく、七月の瑞境期に相当額の前渡金が農家の懐に転げ込み、その一部は農業手形に回されたものの、残りの前渡金に対する期待は大きかつた。しかるにその景気は一部業者をわずかにうるおしただけであつたことは、まさしく町挙げての期待に反したものであるといい得る。

黄金の波を秋風になびかせた水田もきれいに刈り取られ、収穫された農作物は近年まれに見る大豊作であり、単作農家の大多数を占めるわが金木町も御多聞にもれず相当の好景気を各方面から予測されこれに対する期待もまた大きかつた。

しかし、これもまた天候に災いされ、供米奨励金の期待も薄れ、加うるに、予約集荷制度による前渡金、農業手形等の差引き返済は農家経済にとつて多大の障害となり、更にまた過去二カ年間の冷害による各方面からの負債の返済は一部農家にとつて今日なお深刻な様相を呈しております。

したがつて、端境期の前渡金に対する期待と全く同じ結果を招くに至り、町商工業者にとつては一抹の淋しさを感ずにはおられず、来る三十一年の町農商工業界の経済状態には早くも暗影を投げかけている。けれどもその間計画生活計画農業を営んだ人は、他の一般の農家との間にすべてにおいて相当の差を生じたことは否めない。

収穫期以後の農家経済をみるに例年以上に銀行預金利用者が増えておることは、来る年に対する準備に万全の措置を持つておることと思い誠に喜びにたえない。

この一時からみて、三十一年の夏枯れはそれほどでもない、その単純な考えも成り立たないわけではない。しかしながら少い農家の手持資金をもつて再び大豊作に導くには相当の苦労が必要であり、三十一年こそは名実ともに試練の年でもありましよう。こうした世代には農商工業界にとつては如何なる方法で金融機関を利用するかに依つてその岐路が見えるともいわれております。来る年から徹底的に始まるであろう新生活運動とともに、われわれ金融機関も町民の皆様と手を取り合つて多難の経済に対処する覚悟であります。

町民各位におきましても、少い資金を最大の働きとすべく各金融機関の利用を通じて経済の健全を保とうではありませんか。これがすなわち今から予測される暗い経済を乗り切る唯一つの方法ではないかと思うものであります。お手元の現金はひとまず貯蓄いたしましよう。

おサル祕芸

おトソでホロ酔いキゲンのおサルさん。

これは上野動物園の名物男のチイちゃんの、人間さまハダシの秘芸。

『どうだい、この豆シボリの手ぬぐい…ちよいとイキだろう。炭坑節かつて？

冗談でしよう、こう見えても安来節でさア。

…朝も早うからドジョウ屋でござい。』

トホツ、おとけてゴザル。

★★謹賀新年★★

金木町長 花田一
助役 三上武男
収入役 伊丸岡勘二
調査室長 木立民五郎
総務課長 小野四郎
産業経済課長 西沢小市郎
社会福祉課長 山中勝雄
建設課長 白川常英
税務課長 木立民五郎
嘉瀬支所長 岩村糸太郎
喜良市支所長 伊藤文雄
金木保育所長 今幸八郎
金木第二保育所長 工藤栄
金木町喜良市診療所
外職員一同

金木町教育委員会
委員長 鳴海民之助
委員 伊丸岡政美
委員 小山内嘉一郎
議会選出委員 中村本眞
教育長 福士勇
外事務局職員一同

選挙管理委員会
委員長 山田勝太郎
委員 工藤林藏
委員 今与之助

金木消防団長 中村美智男
嘉瀬〃 山中与七
喜良市〃 三上政雄
外各団員一同

弘大（農学部）の農場に切替え

金木実験農場　広さと設備を最大利用

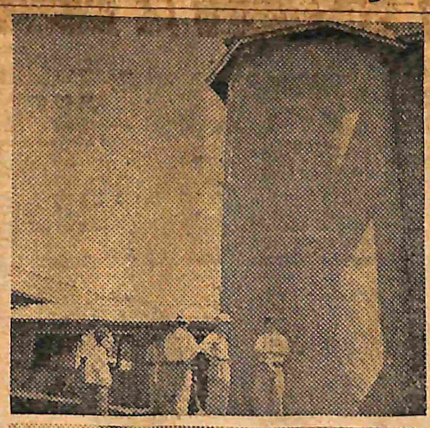
金木駅の東方、金木川のほとり、南は霊峰津軽富士と津軽平野の沢田を一望できる秀麗雄大な大自然のふところに潤く抱かれた松の翠の丘。この丘を中心にした一帯は青森県農業綜合研究所金木実験農場で、ここには現在県の養鶏指導所と家畜衛生保健所があり、なお今年からは弘前大学農学部の農場として発足することになつており、希望多い明日の農村振興に一役も二役も買つている。この農場について前田農場長さんから現況をお伺いし、それをまとめてみよう。

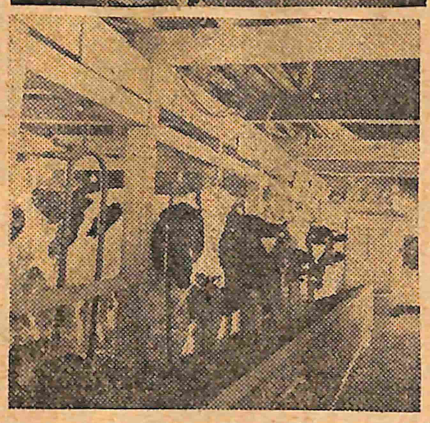
一、農場内の建築物

農場の建築物は総坪数一千四百六十坪という広大なもので、西北は おろか津軽一帯に見られない風雅な粋をこらして造られもので、本館一棟八一坪、寄宿舎二棟三五〇坪、加工場二棟一三〇坪、畜舎七棟八六坪、作業場二棟一二〇坪、雨天体操場七一坪、その他催芽室気象観測設備等がある。

二、実習地

水田は六町五反三畝、畑一四町、





【写真㊤直径十二尺、高さ三十五尺のサイロ㊦飼養管理模範的な牛舎】

一りんご園一町一反、その他山林原野等併せて四三町歩あり、その内訳は次のとおりである。

（イ）水田

全水田に県下に奨励品種を作付けし県から示した基準に基く栽培法に依つて耕作したので本年（三十年）は平均反収三石二斗の収量を上げ、農業協同組合を通じて、五百俵の供米を完納している。またこの水田は区画整理をしており暗渠排水も行われ、約七反の水田裏作（ライ麦）を実施している。（この裏作によつてこの地方の水田裏作が可能であることが証明された）

更に品種比較展示区を設け、有望な品種中当地区の適品種の選出に努力し、あるいは肥料の比較展示区、畜力利用区、直播区等を設置して附近農家の注目を集め、農業経営改善に尽力し二十九年度の区作には二〇〇俵の種籾を供給している。

明三十一年度は優良品種十和田（ふ系三十六号）の原種三〇〇俵を生産し、地域に対して奨励品種の普及に力を入れる計画でいる。

催芽はすべて電熱催芽で、附近の農家にも約八十町歩に及ぶ種籾を催芽してサービスし、またこの時分には種子の消毒にも便宜を与えている。明年度は三五〇坪の保温折衷苗代一五〇坪のビニール苗代をやり健苗育成を展示する予定でいる。

（ロ）畑作

畑作は十四町で蔬菜畑五反、蔬菜普通畑混合一町五反、普通作物六町歩、飼料作物六町歩を耕作し自給自足を確立すると共にナタネ、大豆、大小麦は他に移出し、又県水田裏作用ライ麦は八十俵を種子用として生産し、これを農個で農家にわけている。

馬鈴薯は明年度は原々種農場から種芋を購入し、種子用として安価で当地方に払下げるなど地元の増産に貢献する計画でいる。なお育苗技術を必要とする茄子苗三万本甘藷苗三万本も奉仕的に払下げる予定をしている。

（八）果樹園

りんご一町、梨一反歩ーこれはいずれも二十二年の成木で、剪定法の普及、新農薬の効果の展示を行い、更に下作には飼料作物を栽培し、また草生栽培を実施するなど合理的経営を目指している。

この果樹園には地下にパイプを配置して動力による薬剤散布の設備があり、現代的なモデル果樹園としての資格を備えており、りんごの不作を伝えられた三十年度に平年作の収穫をみている。またこの果樹園に鶏の放し飼いを行い、優良白レグの育成にも成功して、一般の注目をひいている。

（二）畜産

家畜は耕馬六頭、乳牛八頭、種豚九頭、雄種豚一頭、その他緬、山羊、鶏などが若干あり、種豚は年百五十頭の優良仔豚を生産しているが、生産の三倍の申込みに係が嬉しい悲鳴をあげている状態。乳牛はホルスタインの優秀なもので高等登録の牛もあり、今申請中の牛もある。老牛は逐次に更新してその能力を十分に発揮できるようにし、飼養管理は模範的に行つており、またその他酪農指導員の養成にも力をいれている。

西北一を誇る巨大なサイロは一万七千貫のインシレージの生産が可能でこの分で十七頭の乳牛を七カ月余り飼育をすることができる。しぼつた牛乳は直ちに処理室に移して低温殺菌を行い、最も衛生的に処理され、配達までは冷蔵庫に保存するようになつている。

現在市販として八五〇本の牛乳を金木町に出しているが、町民各位の保健と食生活の向上を願いつつ更に増産を期する計画でいる。目下のところ農場の不足乳は附近の酪農農家からの集乳で間に合わせている。

（ホ）農産加工

製粉、精米、搾油、豆腐製造機等農場の自給自足を図り、時には委託加工も引受けている。

前田農場長談　本年から弘大農学部の農場として切替えられることになつているが、実際には実験農場としての性格は継続されるので、当農場の使命である〝新しい農家経営の探究〟〝生産技術の指導〟は続けられるのであつて、この農場の広さと設備が最大限に利用されることになり、名実ともに〝教育の場〟としてますます地域社会との結びつきが深くなるのですから、今後とも地元の皆様の御援助をお願いするとともに、利用価値をもつともつと高め、金木町の〝ほこり〟となる充実した農場にしたいと念願いたしております

旧正月の食品衛生

自然にめぐり会わせた運命というか、造化の神のいたずらか、本州の最北端に位置を占め夏の短い冬の長い気候風土の中に、とにもかくにも生活の余儀なくされたわれわれ青森県民にとつて半年もの雪中生活は、数千年来われわれの祖先から繰り返してきたところであるが決して好ましいものでない。

われわれは、この半年にわたる雪中生活、冬ごもりをいかに楽しく自分達に適した生活様式にあてはめるかが問題であつて、それを解決してきた生活様相の永年の蓄積が結局雪国生活の慣習を作つたのではあるまいか。

強い西北風にいやというほど吹きまくられ粉雪の飛散する猛吹雪に閉じ込められ、木の枝や屋根をかすめて窓や硝子戸をたたく嵐の音を聞きながら寒々とした気持で背中をまるめ、いろりの焚火に手をかざし、こたつに腰をとる思いは雪国に生活した人ならでは味わえないことがらである。

このように家に閉じ込められ活動の制圧下にあつて求める楽しみはいきおいタラフク飲むこと、食うことの楽しみに仕向けられ、習慣づけられて今に至るまで長く尾を引いており、各種の祝事、行事がそれに拍車をかけるわけであるがその中心をなすものは正月行事であろう。

各地方にもそれがあるように、青森県にも正月が新旧二回あつて、さらに旧正月は大正月、小正月の二回があつて結局飲む、食う機会を多くしている。

そこで、私はこの雪中生活の飲食の中心行事である旧正月の食品衛生について話してみたい。

正月中の飲物といえば、いうまでもなく酒であるが、清酒をチビリチビリやる位ならいいが、これは真からの酒好きで、大量に間断なく飲まなければ承知しない者にとつては経済的に長続きしないので結局は安いドブロクにはしらざるを得なくなる。

このドブロクなるものを衛生的にみた場合、農家などが自家用として醸造した場合は比較的衛生的かも知れないが、これを大量にしかも急速に醸造し清澄にして販売する段になると、公然とできないために、便所の附近や物置、床下等の不潔な場所で醸造し、不衛生な操作をするため製品そのものがきわめて不潔なものとなり、これを飲んだものは発熱したり、下痢、胃腸障害を起し、悪酔のために数日寝込んだりする人のあることは周知のとおりである。

また行商人などから得体の知れない焼酎を買つて飲んだためにメチール中毒にかかり失明したりあたら命を落した者もいる。

これはほんの一例にすぎないが、正規の醸造方法をとらないから衛生的でないことは分りきつたことであるから、飲むなら量より質に転向し、清潔で衛生的な清酒をほどよく飲むようにしたいものだ。

また、魚介食肉類その他の食品にしても比較的町に遠い人達などが正月用としてひとまとめに多量を買い溜る風習があるが、これなども食品によつて冬季間でも腐敗、変敗し易いものが少なくないので土地の状況にもよるが、なるべく必要に応じその都度新鮮なものを買うとよい。

腐敗、変腐しないにしても貯蔵方法が悪いためにねずみに荒され、その糞尿により汚染されたものを食べて中毒や伝染病にかかる者は毎年後を絶たないから、ねずみの出入りしない所によく貯蔵する必要がある。また、密殺の獣肉を食べて中毒にかかり命を落した例もあるから、正規のルートを経た新鮮なものを食べるようにすることが大切である。

次に、餅やかまぼこ、菓子等の食品に使用する赤、青、黄などの着色料であるが、中にはオーラミンのような有害なものがあるから十分に注意することが必要である。

これからはよく、農家の軒下にぶら下つている赤、青、黄色とりどりのほし餅を見受けるが、食品に使う色素は今後十分に注意し、店から買う際は、合格証紙をはつてあるものを選ぶと安全である。

たくあん漬用のオーラミンについては昨年来厳重に取締つて不良品を摘発し、さらに現在その他の不良色素の調査取締を実施しているが合格証紙をはつてない疑わしいものは一応もよりの保健所に相談するとよい。最近日本人の平均寿命が年々延びてゆくことが認められているが、雪国生活の腹一杯詰め込み主義を排して、量より質に頭を切り換え、これをほどよくし、衛生的な食生活をするならばさらに長寿を完うすることができるのではなかろうか。

（公衆衛生課技師　小笠原貫次郎）

自主的に協力する

自治振興会（嘉瀬喜良市）を組織

町村合併後の新金木町では自主的に協力する団体をこの程嘉瀬及び喜良市地区で旧嘉瀬村駐在員及び喜良市村の嘱託員の担任区域そのままで夫々自治振興会を組織したこの自治振興会は、あくまでも自主的な組織であつて、町の自治行政に積極的に協力し活動の円滑を図ると共に、町民の福祉向上に貢献する団体で、性格がはつきりしている。

小野総務課長談　嘉瀬、喜良市の皆様が町行政に積極的に御協力を惜しまないといつて、このたび夫々部合のよい地域でもつて自治振興会を組織してくれましたことに対しましては何んと感謝してよいかわかりません。嘉瀬地区では連合体も組織しているときいており、旧金木町の地区で一日も早く組織していただければとも考えております。

町村合併前当町では駐在員制度を廃止しましたが、最近は各町内の有志から、『駐在員がないので連絡の方法がなく不便でだめですから、何んとかして下さい』との声も出ており、私としては町の皆様と御相談して早急に善処致したいと考えております。

議会報告

◇金木町議会第三回定例会

二十七日、二十八日金木町保育所

【提出議案】

一、昭和三十年度金木町歳入、歳出追加更正予算

一、金木町職員給与に関する条例中一部改正の件

一、職員退職手当に関する条例中一部改正の件

一、金木町監査委員の専任につき同意を求める件

一、金木町固定資産評価審査委員会委員の専任につき同意を求める件

一、昭和三十年度三万町村組合立金木高等学校建築の起債及び償還方法の件

一、専決処分報告の件（金木町農業振興五カ年計画）

一、昭和三十年度金木町特別会計嘉良市国民健康保険歳入、歳出追加更正予算の件

一、金木徴税条例中一部改正の件

一、金木町議会議員の年末手当支給条例裁定の件（議員一カ月分の手当）

第一日目は町長提案理由の説明の後、出納監査の立会議員の代表から報告があり、引き続いて住宅特別調査委員会委員長から報告があつた。

緊急動議として今久米雄議員から長富分村の反対に関する動議を提出、その結果動議成立し分村賛成二名、その他の大多数の議員は反対の動議をした。

なおくわしい事は次号に掲載いたします。

☆☆ 謹賀新年 ☆☆

金木町農業委員会連合会
会長　木立民五郎
副会長　中谷右衛門
同　米谷与甚九郎

金木地区農業委員会
会長　櫛引政四郎
会長代理　中谷右衛太郎
委員　白川嘉藤雄
白川原藤唯一郎
吉田泉富次郎
白谷中藏郎
阿部川直郎
太川清作
津島田万雄
津島川助義
中谷初七
白川勝男
吉田常雄
小原忠藏
秋元武造
杉崎十造
吉松金治
須藤山勇直
藤森万郎
成田四郎
鳴海勇栄
木立民造
原田五郎
小山甚九郎
古川
今野
米谷
工藤
岡田
米谷
桑原
三浦
古川

嘉瀬地区農業委員会
会長　今久米雄
会長代理　角田秀次
委員　清水菊太郎
菊地柾助
柾右衛門
右衛成
豊田藏
由清
嘉之助
幸米一
久雄
甚九郎

喜良市地区農業委員会
会長　三浦幸
会長代理　小笠原久
委員　古川甚